

沖縄地域の原風景に関する研究*

—計画・設計技術者へのアンケートを中心として—

Basic Regional Scenes Experienced in the Region of Okinawa ,a Part of Japan

村中 道治** 上間 清***

By Michiharu Muranaka and Kiyoshi Uyema

概要： 地域の土木施設の整備が大規模に、かつ、広範囲に進展するなか、環境思想の高揚を背景に、景観の対応—計画・設計—は、今や、土木技術者の取り組むべき日常的な課題となった感がある。”地域の個性”を求める考え方は、地域計画のあらゆる分野の関心事であるが、景観計画や設計においても地域アイデンティティーをいかに付与するかは重要な課題となっている。

本研究は、沖縄地域における「原風景」の内容や特性、また、その景観計画への生かし方等に関する研究の一環として、沖縄の「原風景」に関する技術者の意識について考察し、指摘された「原風景」について考察するものである。

1. はじめに

国民福祉の充実、国民生活における安心・ゆとりなど、国民の生活レベルにおける質的な充実を、より明確な目標とした上位計画（第3次全国総合開発計画—昭和52年—以降）の策定以降、土木施設や構造物の計画・建設において「環境」問題への対応が必須の課題となって久しい。その過程で景観計画や景観設計の調査研究や事例も数多くのものが蓄積されてきた。歴史的に技術伝播や政策伝播にタイムラグを経験してきている沖縄県においても、昭和50年代以降、土木施設や構造物、また都市空間に対する景観整備が重視され活発な対応がなされ今日に至っている。表-1はそれらの概要である。特筆されるものとして沖縄県景観形成条例の制定（平成6年）および土木施設景観形成（案）の作成と行政活用—あるいは行政指導—の開始（平成6年）がある。

さて、本研究は地域における景観計画検討が進展

する過程で、しばしば論議の対象となる個性ある景観づくりに関連した、沖縄の原風景に関する調査研究の一部である。本題に関しては、関連基礎事項—現風景の意義、調査資源、類別、特性—等について前年報告したが、⁽¹⁾ 今回は、実際に景観計画や設計に従事している地域の技術者を対象に行なった、沖縄の原風景に関する意識調査を中心に報告するものである。なお、今後も継続される本研究の目的は沖縄の「原風景」とされるものの内容と特性、およびそれらが形成された歴史的・自然的背景を明らかにし、地域の個性或る土木施設景観の形成に資する知見を得ようとするものである。

2. 地域における景観整備対応状況

昭和50年代を通じて活発化した全国の各自治体における環境問題への対応は、各種の環境影響評価指針等の制定となって現われ、評価対象項目として景観を明示することが数多く行なわれた。昭和59年には「環境影響評価の実施について」の閣議決定が行なわれ、これに伴う各省庁の関連技術指針も整備された。これらの環境評価技術指針のなかでも調査・予測項目として景観が明示され、行政のレベル

* KEYWORDS： 沖縄地域、景観、原風景、意識
** 学生会員・琉球大学 工学研究科
*** 正 会員・琉球大学工学部環境建設工学科
(〒903-01沖縄県西原町千原 1 番地)

を問わず景観対応が一層拡大する状況を呈した。

その間の景観研究の進展や、景観計画・設計関連の各種図書の旺盛な出版と普及等の背景も整い、景観への関心が、専門技術者のみならず一般市民に至るまで高揚している。

沖縄地域においても、これらの時代背景のなか、昭和47年以来の三次にわたる振興開発計画（十年計画、時限立法による）において、自然環境保全や都市整備の分野で景観への対応が強調され、各種の計画や事業の実施、また、法令（条例）や制度（指針等）の整備がなされてきた。表-1には昭和50年中期頃からの、主要な景観対応事例を示した。

特筆されるものに、那覇市都市景観条例（昭和6

0年、沖縄県初の自治体条例）、沖縄県初の斜張橋となった「とよみ大橋」の景観検討（昭和62年）、25号メートルに及ぶ国道58号ロードパーク事業、復帰（1972）以来最長の新設道路となる「那覇空港自動車道」（南風原^{はなふら}区間）における21連RCアーチ高架橋を含む道路景観検討・実施、そのほか、土木景観形成指針（案）の制定と実施、沖縄県景観形成条例の制定（平成6年）などがある。

このように、景観対応が拡大深化する過程で、地域の個性豊かな景観づくりはどうあるべきか、の課題が常に問われており、沖縄地域の原風景の調査考察の必要性も高まっている。

表-1 道路・橋梁景観等検討事例 - 沖縄県 (2) (3)

No.	検 討 事 例 (年度)	備 考
1	那覇市都市景観整備計画検討 (那覇市、S 57)	那覇市における景観計画策定のための検討 那覇らしきとは、景観現状、景観資源、景観区、整備構想など検討。
2	那覇市都市景観条例(那覇、S60)	本県初の景観条例。
3	都市景観ガイドプラン (那覇市、S 63)	那覇市都市景観条例による良好な都市景観形成のための基本理念、基本計画、実践の方法を定めたもの。
4	橋梁関連景観検討事例 - 昭和末期より事例多数。 (沖総局、県)	石垣港橋梁* (H1)、古宇利大橋* (H4)、とよみ大橋* (S62)、巴龍橋* (H1)、その他、阿嘉橋*、新塩屋橋*、真玉橋*、明治橋*、など多くの橋梁が景観検討された。橋梁建設にお景観検討は今や必須の設計認識。景観設計技術者確保が緊要。
5	新旭橋交差点右折立体橋景観検討* (沖総局、H 2)	那覇都心、明治橋(国道58号)南端、新設漫湖バイパスとの立体交差構造に関する景観検討。基本事項検討。建設将来。
6	国道58号ロードパーク事業 (沖総局、H 3)	恩納村許田〜仲泊間(2.5 Km)に、広巾の沿道空間を確保し、植栽、自転車道、歩道、石積護岸などを整備し道路を公園(パーク)化した。事業期間S51〜S63。懐旧の「名護曲い」 ^{なごまがら} は消失したが国道に新景観誕生。
7	那覇空港自動車道(南風原道路)* 高架橋景観など検討 (沖総局、H 3)	本道路は完成すれば全長約20 Kmの高規格道路となる。高架部分が多く、地域景観への影響が大きいことから検討された。21個の連続アーチが採用され新景観誕生。他の区間についても検討。
8	地域開発環境配慮指針検討* (県、H 4)	開発に伴う自然環境保全の方針。県の環境管理計画策定に参考。
9	道路フォーラムー観光リゾートと道路 (沖総局、H 4)	観光リゾートの振興を支える道路整備のありかたについて討論。
10	沖縄県景観基礎調査 (県、H 5)	沖縄の個性ある景観形成にむけての、基礎事項の検討。沖縄らしき、景観形成方針。
12	土木施設景観形成指針検討* (県、H 5)	土木施設、構造物建設に関わる景観につき考え方、対応の方法、プロセスなどを検討 土木設計技術者の景観意識高揚期待。
13	道路シンポジウム(県、H 6.11月) 「沖縄・美ら道・愛さ道」	土木施設空間のアメニティーを考え、人・暮らし・自然に優しい沖縄の道づくりをいかにするかについて討論。景観も高い関心。
14	沖縄県歴史園道検討* (沖総局、H 7)	地域の歴史的環境を生かした、アメニティー豊かな国道の沿道整備検討。近将来実現の方向。涼風そよぐ松並木復活期待。
15	沖縄県景観形成条例 制定 (県、H 6)	本県の地域、都市景観形成の基本事項を定めた。土木景観、建築景観など個別の方針は、これに基づきそれぞれに検討される。なお、那覇市、石垣市、竹富町等には既に景観形成または保全の条例がある。制定されれば県の景観行政上、条例制定は画期的

3. 調査の方法

調査は、景観問題として質・量ともに関係の程度の大きい土木施設・構造物の景観を想定し、土木分野の技術者（行政、民間）を主たる対象として実施した（図-2）。調査の内容は、沖縄の「原風景」に関する抽出サンプルに対する評価を中心に、景観計画・設計における原風景の理解の重要性、原風景の再生復元努力への姿勢、実現上の困難性に加え、その他 景観問題一般への関心の程度などからなる（下記資料参考）。

さて、抽出した沖縄「原風景」サンプルは図-3に示すとうりであるが、これらのまとめに当たっては次の事項を考慮した。すなわち、①広く普及している沖縄歴史書類、文化史書類、写真集類などを調査し出現頻度の高い図絵・写真を選択すること、②抽出に当たって「原風景」の類別を試み（図-1）この類別ごとに、先述の出現頻度を考慮してサンプル数を定めた、③サンプルの全数は回答の難易性を

考慮して40とした。（4）-（7）

図-3から明らかなように、このようにして抽出された「現風景」サンプルには、土木構造物や建築物が多く含まれており、また、自然や所作風景も南国沖縄の個性的な歴史や生活を示唆するものが多い。

各図絵の下位には、5段階評価を示し、回答者のサンプルに対する「原風景」の印象度を調べた。評価段階は1から順に印象度が強くなるものとして回答を得た。例えば、1は 原風景としての印象度が弱い であり、5は強いを表わす。

原風景の定義として、ここでは、試みとして一定の地域にあって人々が長きにわたる生活体験から得た共通の原型的風景—と考えているが、厳密には地域の生活者個々にも相違があると考えられる。この「共通」を見出すことが、景観計画・設計上重要であると考えられる。原風景については、意識の揺れもかなりあると考えられることから、自由な意見の提示も重視すべきと考え、回答を得た。

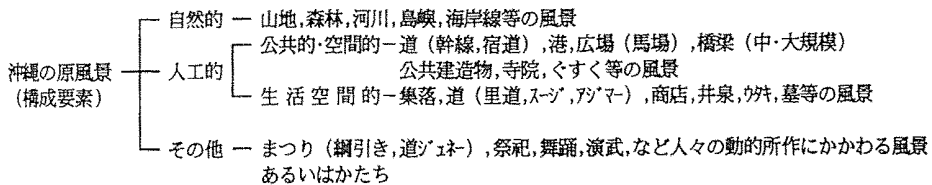


図-1 沖縄「現風景」類別試案と構成要素

参 考 「沖縄原風景」に関するアンケート

平成 7年10月

景観問題に関する調査研究の一環として、沖縄の「原風景」に関する調査を実施しております。景観計画・調査・設計に御関係の皆様、また沖縄の文化や歴史に関心の深い皆様の「原風景」に関するお考え、印象をお聞かせ願えれば幸いです。

琉球大学工学部 建設工学専攻 村中 道治

質問に対する答えとして該当するものに○印を付してください。

- 貴台の御専門とする分野は下記の何れでしょうか。
ア. 土木設計 イ. 建築設計 ウ. 計画調査 エ. 歴史・文化論等 オ. ジャーナリズム
カ. その他
- 原景の計画・調査・設計についての御関心・御経験を伺います。
2-1. 景観問題に対する御関心は
ア. 強い イ. 普通 ウ. とくに関心はない
2-2. 原景の計画・調査・設計に関する御経験は
ア. 数多くの経験がある イ. 多少の経験がある ウ. これまでとくに経験はない
- 参考資料「沖縄原風景」に関する絵、図、写真集は、歴史的に沖縄の「原風景」と思われるものを自然系、人工系系、及び生活所作系、及びその他の混合系に大別し、文献調査及び野外調査を踏まえつつ重複を避けつつ抽出し、無作為に列挙したものであります。各図（写真）の下にある5段階の尺度により、「沖縄原風景」としてのそれぞれの絵がもっている印象の度合いをお答えください。
- 景観問題に対する市民、行政の関心が現在高牌しつつあるように思われます。このような現状を考え併せて「沖縄原風景」についての御意見を伺えください。
4-1. 地域の景観問題を考える上で地域の「原風景」への理解は
ア. 極めて重要である イ. 重要である ウ. とくに重要でない エ. 必要である
4-2. 地域の景観計画、景観創出の上で、「原風景」の復元、再生への努力は
ア. 極めて重要である イ. 重要である ウ. とくに重要でない エ. 必要である
4-3. 原風景の復元、再生といっても法則上、行政上また対応技術上も種々の課題があるように思われます。このような状況をお考え併せて貴台としての復元や再生の難易性についてお尋ねします。
ア. 十分可能である イ. 可能である ウ. 極めて困難か不可能である
- 復元や再生を促して、原風景の全体や部分の持つ形態や意味を、地域の景観設計に利・活用することについては、基本的な考え方や、具体的な対応についても多くの意見があるように思われます。このことについて貴台の自由な御意見をいただければ幸いです。

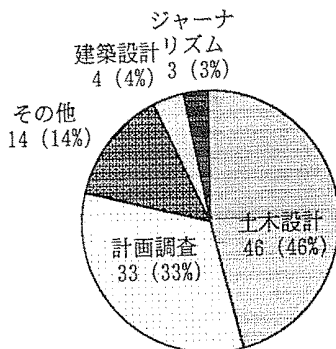


図-2 アンケート回答者構成

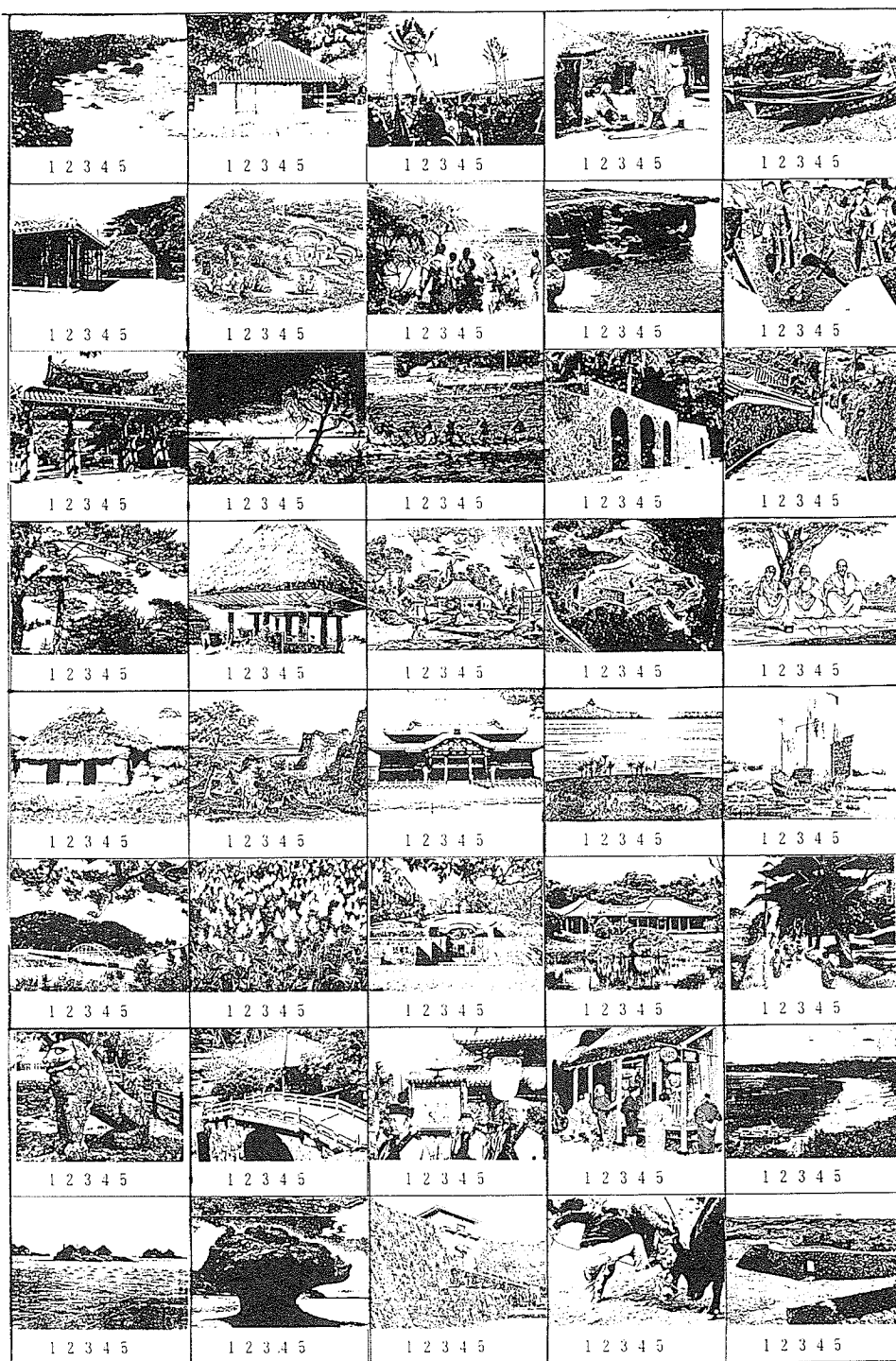
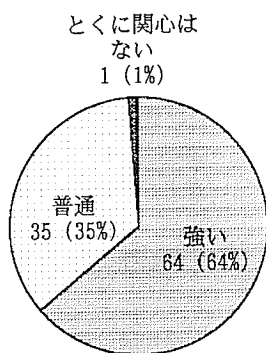


図-3 沖縄「原風景」抽出図絵

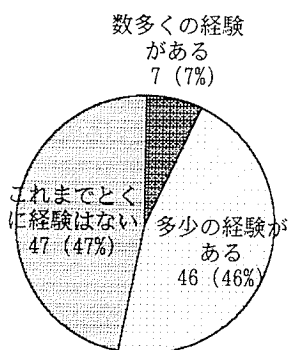
4. 調査結果と考察

技術者を中心に行なったアンケート調査の結果は図2～図5 および表2～表4に整理した。以下、それぞれの結果について考察する。

図4(a)は回答者の景観問題一般への関心および経験の程度を示しており、回答者属性の一環を示す。景観問題への関心はきわめて高いものがあり、過半(64%)が強い関心を示し、一般的関心(普通)を含めればほぼ全回答者(99%)が関心を示しており、予想されることながら技術者の関心の顕著さが示されている。図4(b)は景観関連の計画調査や設計業務についての回答者の経験の程度を示すものであるが、過半(53%)が経験を有しており、数多くの計画調査・設計分野があることを考慮すればかなりの経験者の存在を示唆しているように思われ

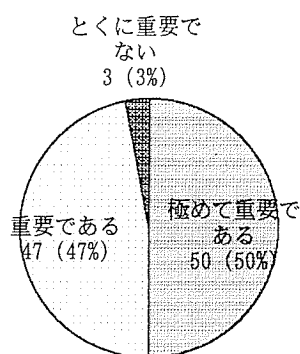


(a) 関心の程度

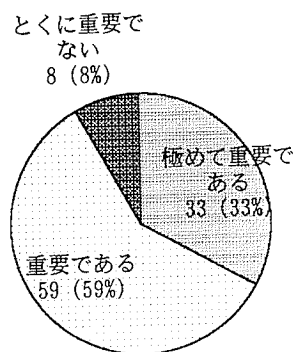


(b) 経験の程度

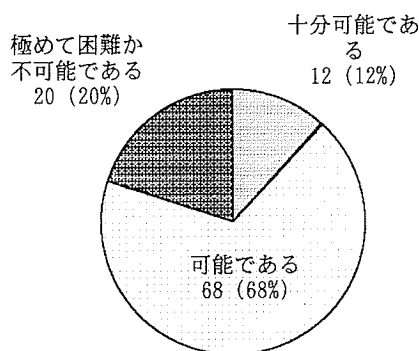
図-4 景観問題への関心と経験



(a) 景観上の重要性



(b) 復元・再生努力の必要性



(c) 復元・再生の難易

図-5 「原風景」の景観計画上の認識

る。国および自治体行政における景観対応の活発さがこの背景にあると考えられる。

図5(a)(b)(c) 景観問題(計画・設計)に関連して、「原風景」のもつ意義についての認識内容である。ほぼ全数に近い回答者(97%)が原風景の景観上

の重要性を指摘していることは（図(a)）、期待される以上の顕著さを示しているように思えた。地域における個性ある景観づくりへの関心の高さを示すものでもあろうか。図(b)は原風景の復元・再生への努力の重要性についての回答である。図(c)のその難易に対する認識も含め、両者とも過半を超えて積極的な認識を示している。しかしながら、具体的に原風景を実現することについては、過半が積極回答（可能）している反面、困難さあるいは不可能を指摘する回答もかなりの割合(20%)を示しており、原風景の重要性や復元再生について積極的にみとめ

つつも、その実現については法制上あるいは実務上困難な課題を認めている技術者が少なからず在ることを示しており興味深い。

表2は上述した景観整備上の原風景のもつ意義や認識について、所属専門分野および景観経験の程度等の属性別に再集計（加算）したものである。属性によって原風景に対して異なる認識が見られるか否かの判断にすべく試みたものであるが、 χ^2 値は一つのケース（経験別－復元再生努力）除いて有意とはなっていない。この1ケースについても計算値・理論値の差は極めて小さい。これらのことは、景観整備（計画、設計）上の原風景の認識については、属性別に特に差異はないことを示すと考えられ、原風景の理解が広く一般的となっているということが出来よう。

次に表3について考察する。本

表はさきに示した図3の40個の抽出「原風景」の個々に対する回答者の評価値を集計したものである。すなわち、印象度評価欄には各評価の頻度、割合(%)を示し、評価値の欄には各々のサンプルに対する評価平均値および順位を示した。さらに、系別欄にはサンプルの類別所属を記号によって示した。

平均値は各々のサンプルに対する全体としての原風景特性、または原風景らしさの評価と考えることができよう。平均値が約3以上得ていれば当該サンプルは一応の原風景としての評価がなされていると考えたい。表値を見ると3未満を得ている個数は7（No. 17、20、22、26、27、34、36）であり、抽出サンプルの大部分は「沖縄原風景」として理解されていると考えられる。

平均値の順位に注意すると、上位10位を占めているものの内容は、系別欄から判断される通り一部(10、13、15)を除き、その他は全て人工造営系で占められている。

表-2 属性別の「原風景」認識

(a) 回答者所属分野別

職業別	評価	景観上の原風景の重要性				原風景の復元・再生の努力				原風景復元・再生の難易度			
		積極的	一応評価	消極的	計	積極的	一応評価	消極的	計	十分可能性がある	可能性がある	困難不可能	計
土木設計		21	23	0	44	16	24	4	44	6	31	7	44
計画調査		21	14	2	37	13	22	2	37	4	25	8	37
その他		6	11	1	20	5	13	2	20	3	12	5	20
計		50	48	3	101	34	59	8	101	13	68	20	101
評価別度数分布													
分割法による χ^2 検定 自由度 $\phi=4$ 有意水準 $\alpha=0.05$		$\chi^2 = 4.29$ $\chi^2_{\alpha=0.05}(4) = 9.49$				$\chi^2 = 1.32$ $\chi^2_{\alpha=0.05}(4) = 9.49$				$\chi^2 = 1.69$ $\chi^2_{\alpha=0.05}(4) = 9.49$			

(b) 回答者景観経験別

経験別	評価	景観上の原風景の重要性				原風景の復元・再生の努力				原風景復元・再生の難易度			
		積極的	一応評価	消極的	計	積極的	一応評価	消極的	計	十分可能性がある	可能性がある	困難不可能	計
数多くの経験がある		6	1	0	7	6	1	0	7	2	5	0	7
多少の経験がある		23	22	2	47	15	27	5	47	9	29	9	47
経験がない		21	25	1	47	13	31	3	47	2	34	11	47
計		50	48	3	101	34	59	8	101	13	68	20	101
評価別度数分布													
分割法による χ^2 検定 自由度 $\phi=4$ 有意水準 $\alpha=0.05$		$\chi^2 = 4.60$ $\chi^2_{\alpha=0.05}(4) = 9.49$				$\chi^2 = 9.83$ $\chi^2_{\alpha=0.05}(4) = 9.49$				$\chi^2 = 7.62$ $\chi^2_{\alpha=0.05}(4) = 9.49$			

表-3 抽出「原風景」個別評価及び順位

サンプル		印象度評価(点)					無回答	評価値		順位
通番 NO. ①	系 別 ②	1 強い ③	2 やや強い ④	3 普通 ⑤	4 やや弱い ⑥	5 弱い ⑦		総 得 点 ⑧	平 均 点 ⑨	
1	○	6 5.6%	10 9.8%	43 40.2%	26 24.3%	22 20.6%	1	369	3.45	24
2	●	2 1.9%	7 6.5%	29 26.9%	38 35.2%	32 29.6%	0	415	3.84	7
3	▲	2 1.9%	13 12.0%	40 37.0%	32 29.6%	21 19.4%	0	381	3.53	21
4	▲	5 4.7%	21 19.6%	30 28.0%	25 23.4%	26 24.3%	1	367	3.43	25
5	●	4 3.8%	9 8.5%	26 24.5%	37 34.9%	30 28.3%	2	398	3.75	11
6	●	3 2.8%	9 8.4%	38 35.5%	31 29.0%	26 24.3%	1	389	3.64	14
7	△	2 1.9%	8 7.4%	21 19.4%	35 32.4%	42 38.9%	0	431	3.99	6
8	▲	7 6.6%	14 13.2%	44 41.5%	21 19.8%	20 18.9%	2	351	3.31	26
9	○	7 6.5%	8 7.4%	32 29.6%	32 29.6%	29 26.9%	0	392	3.63	15
10	▲	5 4.6%	16 14.8%	28 25.9%	29 26.9%	30 27.8%	0	387	3.58	16
11	●	2 1.9%	7 6.5%	11 10.3%	25 23.4%	62 57.9%	1	459	4.29	1
12	○	2 1.9%	14 13.2%	40 37.7%	24 22.6%	26 24.5%	2	376	3.55	19
13	▲	2 1.9%	7 6.5%	27 25.0%	47 43.5%	25 23.1%	0	410	3.80	9
14	●	1 1.0%	11 10.2%	29 26.9%	35 32.4%	32 29.6%	0	410	3.80	10
15	△	1 1.0%	8 7.4%	15 13.9%	35 32.4%	49 45.4%	0	447	4.14	2
16	○	9 8.4%	24 22.4%	38 35.5%	22 20.6%	14 13.1%	1	329	3.07	32
17	●	13 12.0%	24 22.2%	44 40.7%	21 19.4%	6 5.6%	0	307	2.84	37
18	△	8 7.4%	24 22.2%	38 35.2%	24 22.2%	14 13.0%	0	336	3.11	31
19	●	5 4.7%	16 15.0%	29 27.1%	33 30.8%	24 22.4%	1	376	3.51	22
20	▲	17 15.9%	36 33.6%	32 29.9%	12 11.2%	10 9.3%	1	283	2.64	40
21	●	9 8.3%	30 27.8%	35 32.4%	17 15.7%	17 15.7%	0	327	3.03	33
22	△	10 9.3%	30 28.0%	34 31.8%	17 15.9%	16 15.0%	1	320	2.99	34
23	●	3 2.8%	12 11.1%	12 11.1%	22 20.4%	59 54.6%	0	446	4.13	3
24	○	3 2.8%	13 12.0%	35 32.4%	34 31.5%	23 21.3%	0	385	3.56	18
25	●	7 6.5%	16 14.8%	23 21.3%	36 33.3%	26 24.1%	0	382	3.54	20
26	△	15 14.2%	26 24.5%	42 39.6%	19 17.9%	4 3.8%	2	289	2.73	39
27	○	18 16.8%	21 19.6%	39 30.8%	22 20.6%	13 12.1%	1	312	2.92	35
28	●	1 1.0%	6 5.6%	18 16.7%	39 36.1%	44 40.7%	0	443	4.10	4
29	●	1 1.0%	8 7.6%	34 32.4%	35 33.3%	27 25.7%	3	394	3.75	12
30	△	8 7.4%	22 20.4%	39 36.1%	18 16.7%	21 19.4%	0	346	3.20	30
31	●	3 2.8%	13 12.0%	23 21.3%	39 36.1%	30 27.8%	0	404	3.74	13
32	●	0 0.0%	7 6.5%	19 17.6%	43 39.8%	39 36.1%	0	438	4.06	5
33	△	5 4.7%	13 12.3%	33 31.1%	34 32.1%	21 19.8%	2	371	3.50	23
34	▲	17 16.3%	23 22.1%	31 29.8%	18 17.3%	15 14.4%	4	303	2.91	36
35	○	10 9.4%	14 13.2%	41 38.7%	19 17.9%	22 20.6%	2	347	3.27	27
36	△	15 14.0%	23 21.5%	48 44.9%	14 13.1%	7 6.5%	1	296	2.77	38
37	○	10 9.3%	16 14.8%	43 39.8%	19 17.6%	20 18.5%	0	347	3.21	29
38	●	1 1.0%	8 7.4%	30 27.8%	41 38.0%	28 25.9%	0	411	3.81	8
39	▲	8 7.5%	16 15.0%	35 32.7%	35 32.7%	13 12.1%	1	350	3.27	28
40	●	4 3.7%	9 8.4%	32 29.9%	46 43.0%	16 15.0%	1	382	3.57	17

※ 各および評価値は、無回答数含まない回答数によるものです。
 ※ 系別：●-人工造営系 ○-自然系 ▲-生活所作系 △-混合系

表－４ 「原風景」に対する回答者の意見（一部）

No	意 見	回答者所属	類 別
1	土木工事、特に構造物は人工的なものであり、設計にあたり地域になじむ景観を検討する必要がある。 そのため十分に地域の歴史、文化、生活を考慮しなければならない。	土木設計	◎
2	地域住民が納得し、十分理解できて親しみのもてる景観に復元してほしい。	土木設計	◎
3	沖縄は昔、中国と交流もあったということで、建物の景観が日本の古い建物とは異なっているので、地域の景観設計では非常に活用できると思います。	土木設計	◎
4	地域のもつ風土、文化を継承していくには、形にすることが効果的であり本格的に取り入れることは、財政的な困難さがあるが、部分的な取り入れかた等で、工夫することが景観設計の重要なことだと思う。	建築設計	○
5	具体的に実行する方法について、その進め方が特に大事であると思われる。 原風景の基本的な考え方がまとめられ、それを進める地域を選出し、公共事業とタイアップして進め、一般の方にも賛同してもらうことが実現させるための重要事項だと思う。（地域選出は、モデルケースとして一カ所推進して、それを元に次のモデル地区を選出（複数）する。） 基本的な考え方は、人により、時代の選定により、構造物の種類により、多岐に分かれていくと思われ、モデルケースで、試行錯誤的な対処を行ってから考え方の指針を決定したほうがよい。	土木設計	◎ ○
6	建築と同様に土木にも「設計競技」方式を導入することも有効と思う	土木設計	△
7	地域の景観設計において、原風景は極めて重要な景観資源だと思われますが、将来の土地利用動向も視野に入れた、未来風景と原風景との調和のとれた景観設計を行うべきだと思います。	土木設計	◎ ○
8	原風景とは、各地域によって異なる、文化、歴史等そのものだと思う。例えば、地域整備を行うにあたって、土地利用の形態がさまざまに変化し確実に原風景は失われると思われますが、原風景だけを重視する事は、その地域の発展に大きな妨げになりうる可能性がある。 これからの景観設計は、原風景、未来風景を調和した未来型思考の都市景観形式をはかるべきだと思います。	土木設計	◎ ○
9	景観に対し、県民の意識は高くなってはいるが、統一された景観に町並みをもっていくには、個人負担（金銭面）しかない。行政側の更なる景観問題の県民への啓蒙が必要とされる。（結局は建築協定、緑化協定しても、個人の努力、協力が必要とされるから。）	計画調査	○
10	「原風景」は個人の世代や生まれ育った場所等、環境によって違ってくと思いますが、何か基準みたいなものがあるのでしょうか？ それとも誰もがこうだろうと思う風景が「原風景」なのか？ アイデアの世界の風景が原風景になってくるのでしょうか？	計画調査	◎

* 類別：◎－基本的考え方、景観思想関連 ○－景観計画、その実施関連 △－景観設計、その方法関連 □－その他意見一般

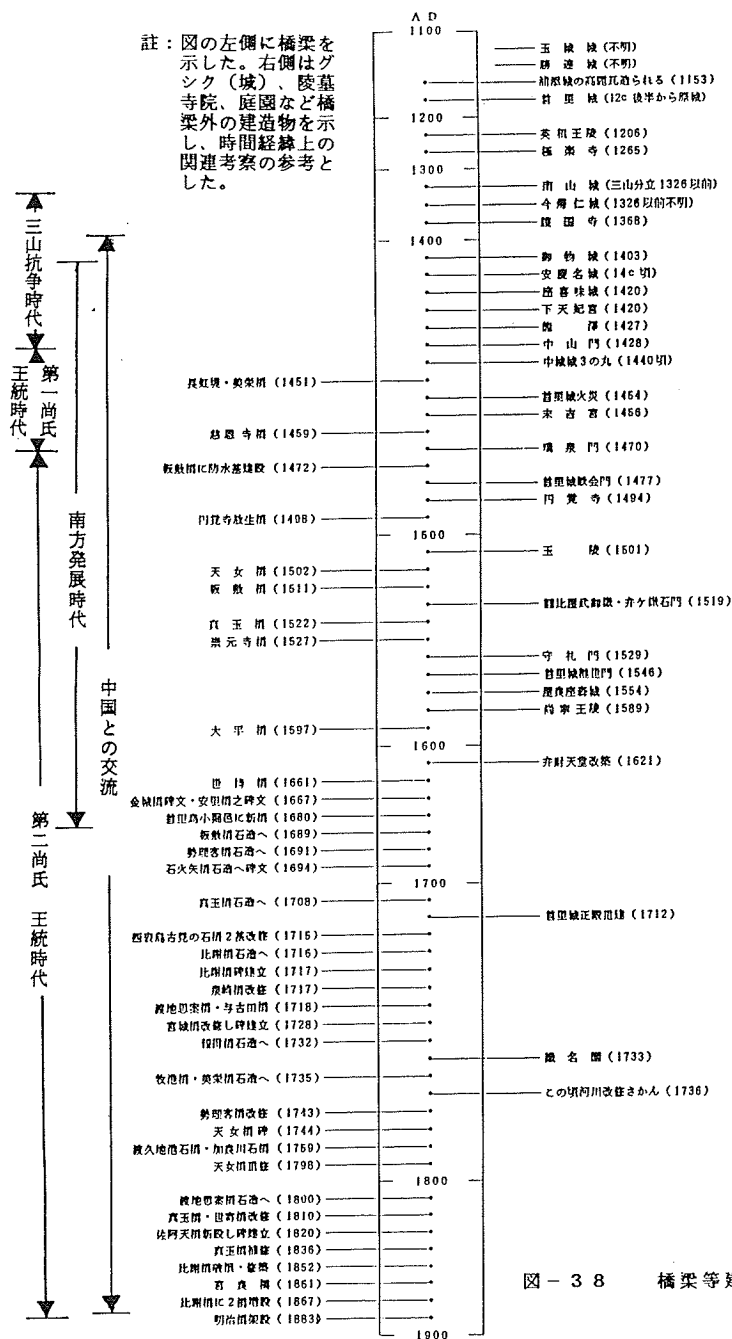


図-38 橋梁等建造物建設年表

図-6 沖縄の主な歴史建造遺構建設経緯

(8)

具体的な事例の指摘を試みると、評価点1位(4.29)はサンプルNo.11の「首礼門」、2位 No.15は沖縄古武家集落の形状をよく遺している「金城町石畳」道である。その他、めばしい人工造営物の評価点を示せば 駝背橋として残存する「天女橋」No.32は4.06「ぐすく」の城門 No.40 は3.57である。

ここで人工造営系として示したものの内容は、沖縄独特の造形をもつ石造土木建造物や建築物などであり、一般歴史書や文化・観光図書などに高い頻度で掲載され、また、残存遺産として見聞される機会の多い対象である。日常的な、かつ、長期間の見聞接触の頻度が、人々の原風景の意識の形成に大きく寄与することは予想されるところであり、表3の結果もおおむねこのことを示している。

表4には、「原風景」を景観整備(計画・設計)に利活用するについて、回答者の自由な意見を求めたものの一部である。。示された意見は総数49件であるが、ここには10件のみを示した。表には参考のため回答者の所属、意見内容の概略類別(記号)も示してある。意見は、原風景に対する基本的事項や原風景を考慮した景観計画のあり方、また、景観設計に関する事項など関連の広い分野にわたって意見が述べられている。

意見 No. 10 には、「現風景の基準」について問いかけているが、基本的な考察課題であろう。本稿で考える「原風景」の定義については、第3節で試みの説明を提示したが、明快な基準を示すことは容易ではない。ただ、「原風景」を或る地域の景観整備のあり方に関わる問題として考察するとき、地域内の細部域別の景観の相違や、個人的な属性(たとへば年齢)などについては、これらを止揚した立場や視点を堅持する必要はあると考えられる。これらも含め、多くの意見のなかには今後の考察課題となるものが少なくない。

図5は沖縄の文化(建造物)遺産として特筆される重要性をもつ石造遺構のうち、「ぐすく」(拝所・聖所等、後日、一部が城に移行)関連建造物および石橋を中心に年表図としたものである。図の右側に「ぐすく」関連、左側に石橋関連事項を配してある。今回の調査で「沖縄原風景」として比較的高い評価点を得た人工造営物系も、これら石造遺構に関わるものも多く、原風景の史的考察に必要な資料

として提示したものである。「守礼門」(1529)、「長虹堤」(1451、石拱を有する)などが示されている。

5 おわりに

以上、沖縄地域の景観問題に関し、原風景研究の一環として、技術者アンケートを実施した結果について述べた。原風景について景観計画・設計に携わる方々が、その意義や重要性、また、その個性ある景観整備上の利・活用について、全体としてかなり積極的な意識を有していることが知られた。また、今後の調査研究上参考とすべき原風景に関する意見も多く提示された。

ひとびとの原風景意識の形成には、生活環境における自然や文化形態のみならず、民俗思想や文学(琉球歌謡一琉歌、伝承 等)など無形の遺産の影響も考えられる。その他、「原風景」の応用の実情も含め、今後、調査考察を継続したいと考えている。

【 参考・引用文献 】

- (1) 上間清：沖縄の原風景に関する基礎的考察、土木学会西部支部研究発表会講演概要集、1995-3、p.640-41
- (2) 上間清：道づくりと景観、居住環境の科学、琉球大学公開講座委員会、1995-9、p.151
- (3) 沖縄県土木建築部：沖縄県土木施設景観形成技術指針、(財)沖縄県建設技術センター、1995-10
—その他、多くの景観関連報告書を参考
- (4) 沖縄歴史研究会：沖縄の歴史(全3巻)、沖縄教育出版、1984
- (5) 那覇出版社：沖縄文化財百科(全4巻)、1988
- (6) 沖縄県立博物館：冊封使—中国の使者、1989
- (7) ラブ・オ・ジュリー・上原正稔：大琉球、ニライ社、1987
—その他、参考図書多数
- (8) 上間清：沖縄の石構造物に関する土木史的研究自出版、1987-5、p.93